

## 第8回麻生区区民会議

- 1 開催日時 平成20年3月24日(月)午後6時~午後8時24分
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]  
飯塚委員、石田委員、上野委員、小川委員、尾中委員、神本委員、佐藤委員、菅原委員、田中委員、谷川委員、玉蟲委員、津田委員、西谷委員、平林委員、松本委員、京委員、守田委員、矢野委員  
(欠席)笠原委員、高桑委員  
: 委員長 : 副委員長  
[参与]  
伊藤参与、勝又参与、山口参与  
(欠席)雨笠参与、尾作参与、花輪参与、山崎参与、相原参与、吉田参与  
[事務局]  
秦野副区長、古知屋総務企画課長、向坂総務企画課企画調整担当主幹、岩佐総務企画課企画調整担当課長補佐
- 4 次第 (1) 開会  
(2) 議事  
1 麻生区区民会議「区民フォーラム」結果概要について  
2 課題の調査審議について ~「心が響きあう地域づくり」~  
ア「農」の専門部会からの調査検討経過の報告及び事例の調査審議  
イ「高齢者」専門部会からの調査検討経過の報告及び事例の調査審議  
(3) 報告  
1 平成19年度麻生区協働推進事業実施結果及び平成20年度麻生区協働推進事業実施計画について  
2 第2期区民会議団体推薦委員依頼団体について  
(4) その他  
第9回区民会議の日程について  
(5) 閉会

**【配布資料一覧】**

「次第」、「委員・参与名簿」、「席次表」

資料1 「農」の専門部会～調査検討経過について～

資料2 「高齢者」専門部会～調査検討経過について～

資料3 麻生区区民会議「区民フォーラム」企画案

資料4 麻生区区民会議要綱

## 第8回麻生区区民会議

午後6時00分開会

### 1 開会

委員長 こんばんは。初めての区民フォーラムも無事終わりました、本当に皆様方に感謝いたしております。特に事務局の皆様方には周到な準備をしていただき、フォーラムもスムーズに運びましたことを改めてお礼申し上げたいと思います。また、参与の皆様方にはお忙しいところ区民フォーラムにご参加いただきまして、本当にありがとうございました。

区民フォーラムも150人の参加者を得まして、これもひとえに皆様方が区民会議の活動をさまざまな形で支えてくださったおかげと感謝しております。このフォーラムにつきましては、また後ほどこの中で皆様からご意見をいただくことにします。きょうは審議をする最後の区民会議でございますので、内容がたくさんで、時間内にできるかどうかと危ぶまれるようです。早速審議に入りたいと思います。

それでは、議事に入りたいと思います。初めに、この会議は公開となっております。傍聴の皆様へのお願いですが、お手元に配付しております遵守事項をご一読いただき、お守りいただきますようお願いいたします。

### 2 議事

#### (1) 麻生区区民会議「区民フォーラム」結果概要について

委員長 それでは、次第2の議事(1)麻生区区民会議「区民フォーラム」結果概要についてに移らせていただきます。

今も申し上げましたように、区民会議は、ちょうど1カ月前になりますが、2月23日(土曜日)午後1時半から開催いたしました。この区民フォーラムの結果概要につきまして、区民フォーラム実行委員会で企画のほうを担当していただきました委員からご報告をいただきたいと思います。

それでは、よろしくお願いたします。

副委員長 それでは、2月23日に行われました区民フォーラムの結果概要について皆さん方のお手元の資料1で概要をまとめているので、かいつまんでご報告をさせていただきたいと思います。

区民会議の中で、この2年間のまとめを区民に報告する責任があるのではないかと、そんなようなことが協議をされて、区民フォーラムを開こうということになりました。その中身について実行委員会を形成させていただいて、そして、区民フォーラムを実施するという方向で何回か打ち合わせをさせていただきました。その結果、第1部では経過報告、第2部では麻生区の中で取り組まれている地域の活動事例、実践事

例を3つの団体から報告させていただきました。候補の選定につきましては、実行委員会で何度か各種それぞれの地域のバランスを考慮しながら、あるいは団体の偏りが無いような形で検討いたしました。結果的には虹ヶ丘コミュニティルーム、多摩美、新ゆりグリーンタウン連絡協議会、この3団体から実践事例の報告ということで実行委員会では決め、依頼して、当日の実践事例の発表につながったというふうに思っております。

それから、第3部では全体集会ということで、会場の意見発表等が行われました。この第3部につきましては、実行委員会ではシンポジウムとか、パネルとか、いろいろな形の方法を検討しましたが、結果的には「心が響きあう地域づくり」ということで、参加者と直接に意見、交流をしたほうがいいだろうということで、このような形の全体集会にまとまりました。当然、第2部の事例発表を行った3つの団体も参加していただいて、第3部につなげていただいたということでございます。参加者からも活発な意見等が出て、第3部については、それぞれの麻生区の中で取り組まれている事例が大変多く出されたような感じがいたします。

2ページにつきましてはアンケートの集計でございます。150名参加し、乳幼児の保育が5名ほどいたということですが、150名の参加者から49名の方々からアンケートに回答をいただいております。それを集計したのが2ページ、3ページ、4ページになっております。区民フォーラムがどういう形でまとまったのかということがこのアンケートからおわかりいただけるかと思っております。

アンケートの1では、本日の会合を知ったのは何かということで、区民会議実行委員会ではPRについて随分長い時間をかけて検討いたしました。そして、区民会議でそれぞれが友人、知人を誘い合う、あるいは市政だより区版に載せる、区民会議ニュースで積極的にPRする、あるいはポスター、チラシで広報するというような努力の成果がこのアンケートに出ているような感じがいたします。

それから、そのほか、広報の手段で違う意見を出された方が6例書いてあります。

それから、(2)で区民会議の取組みについての理解というのが、「理解した」が36.7%、「まあ理解した」が27名の55.1%、この2つを足しますと91.8%というかなり高いパーセントで区民会議の取組みについて理解をしていただいたというふうに思っております。参加者が好意的に回答してくれたのかなというような甘さもあるのですが、「理解した」「まあ理解した」、合わせて91.8%という高いパーセントになっておりますことは、参加者には理解していただけたのだろうと思います。

それから、第2部、あるいは第3部で参考になった事例はという事例のアンケートでは、下に参考になった理由等が書いてありますように、虹ヶ丘のコミュニティルームに関して大変参考になったという回答が寄せられております。それから、多摩美、新ゆり、同じパーセントでございますが、そんなような3つの事例が大いに参考にな

ったという回答がここから読み取れるのではないかと思います。

それから、(4)で「心が響きあう地域づくり」を進めていると思うかという質問に対して、「進めている」が28人の57.1%、あるいは「進めようとしている」を含めて、この1、2を含めて75.5%になりますので、地域づくりの中で「心が響きあう地域づくり」を進めている地域が多いというのがこのパーセントから読み取れるのかなという感じがいたします。

そのほか、(5)でその取組みについて切り口をアンケートで求めておりますが、防犯、防災、環境美化、高齢者支援、子育て支援、今、地域社会が抱えている現実的な課題にまさに取り組もうという、そんなようなことがこのアンケートから読み取れるような感じがいたします。

それから、この回答をされた中で、うまくいっている理由、あるいは困っている理由等をアンケートで求めておりますが、ここに書いてあるような内容がそれぞれ回答者から出てきております。

それから、最後になりますが、区民会議でのフォーラムの運営についての意見を求めています、無記入の方が50%を超すということで、運営に対する意見というのが直接聞けなかったのですが、回答を寄せられた中ではここに書いてあるような内容が出ております。

そんなようなことで、回収率が32.7%と低いわけですが、その低い中で読み取ると、以上申しましたようなことになるのではないかと思います。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

ただいま区民フォーラムの結果概要についてご報告をいただきました。

区民フォーラムは150人という多くの方にご参加いただき、区民の皆様と活発に意見交換をすることができました。区民フォーラムの件でご意見、ご感想、何でも結構でございます。委員の方から伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。率直なご意見をお寄せいただければと思います。

副委員長 3ページで終わってしまいまして、4ページもありましたので、4ページについてコメントさせていただきます。

参加者でアンケートにお答えいただいた方々の住まいですが、圧倒的に麻生区内が91.8%、45の方が回答されています。そして、区外からも何名かお見えになっておりますが、区内の町会、町名につきましてはここに書いてありますように、細山地区が9名の参加で圧倒的に多いわけですが、白山、千代ヶ丘、片平、広範囲にわたって区内から参加をいただいているのがこれから読み取れるのかなという感じがいたします。

それから、年齢につきましては、60歳代、70歳代が圧倒的に多い。この2つを合わ

せて67.4%ということで、地域活動には60歳、70歳代が中心になるのかなという感じがいたします。

性別につきましては、圧倒的に男性が多く、73.5%、36名の方々の回答であります。

以上かいつまんでご報告いたします。

委員長 ありがとうございます。今のも加えましてご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょう。感想で結構です。ぜひという形で動員はかけませんでして、皆様方が口コミやポスター等の広報活動で来てくださった方々。最後に、今、報告にもありましたように、こういう会合に、私としては珍しいかなと思ったのですが、男性が非常に多かったと思います。その点も今からの地域活動は男性が大いに働くようになるのかなと、非常に期待を持ちながら頼もしく思いながら私は見ておりましたが、皆様方、何かご意見はございませんでしょうか。

また何かありましたらご意見をお寄せいただければと思います。

それでは、ほかにもたくさん議事がありますので、フォーラムのことはこれで終わらせていただきたいと思います。

## (2) 課題の調査審議について～「心が響きあう地域づくり」～

委員長 それでは、議事(2)課題の調査審議についてに移らせていただきます。

区民会議では、「心が響きあう地域づくり」を課題テーマとし、2つ目の事例として「地元農産物と地域の交流」を、3つ目の事例として「高齢者」を取り上げました。この2つの事例につきましては専門部会を設置し、調査検討を進めていただいておりますので、それぞれの専門部会から調査検討経過についてご報告をいただき、その中で全体の意見交換を行っていただきたいと思います。

### ア「農」の専門部会からの調査検討経過の報告及び事例の調査審議

委員長 それでは、まず、「農」の専門部会から始めたいと思います。部会長、よろしくお願いたします。

委員 それでは、ご報告させていただきます。

資料2があると思いますが、そちらを使ってご説明させていただきます。

結論から言いますと、前回、3月5日に第14回の専門部会を開いたのですが、こちらのほうでほぼすべての3つのところについては方向性を定め、部会のほうはここで一段落という形で一応終結というか、とりあえずは終わってみてはどうかという結論になっております。

めくっていただくと、1ページは、今まで説明させていただいたものですので、2ページも今ご説明いただきました、下から3行目にありますが、区民フォーラムの意

見等も交えて第14回専門部会でいろいろ話をしました。このとき、専門部会の部員がすべて参加して話し、合意したという内容になります。

こちらを見ていただければ一番早いので、下から2行目のところの右のほう、まず1つ、市民農園及び援農ということで、市民農園にプラス援農という言葉を追加してあります。こちらのほうも直前で変更したのですが、市民農園というと、どうしても法的な縛りがあるって動きがとれないというイメージが強くなりますので、そうではなくて、お手伝いできればいいというところ、前回、農(みのり)の寺子屋ですか、フォーラムのときに来ていただいて、我々準備する段取りはできている、ですから、そういう場が欲しいというようなこともありましたので、そういう援農のところについても今後検討していくべきだろうということで、タイトルに加えてあります。

具体的にはどういうことになったかといいますと、やはり農業従事者、農家の方がそもそも農地を貸したい、あるいは手伝ってほしいという意向があるのかどうか、このところがそもそも論で、そこがないとそもそも成り立たないということになってしまいますので、このところを行政、あるいは農協に、農家の方の意向調査をしていただきたいということをお願いするということで1つ落ちつきました。

もう1つ、次、真ん中のところの直売所を通じての交流なのですが、こちらのほうは前回もいろいろ出ていますが、セレスモスの大型直売所の問題がありますので、ここでいろいろな小さいところ等のマップづくりをすることは今時宜を得ていないということで、セレスモスを応援するという形でストップということ。それで、セレスモスに対しては今までいろいろ、禅寺丸柿とか「のらぼう菜」ですか、そういうものがある、あるいはそういうものの食べ方みたいなことを伝えてはどうかという意見がありましたので、そういう意見を農協にお伝えするという形で、こちらのほうはどうかということで終了しました。

3番目のところの食育を通じての交流ということで、こちらのほうは王禅寺小学校に引き続き連絡をしております、委員にご協力いただき、何度もいろいろな方に取り次ぎをしていただき、ようやく地域の中心になってくれそうな人が決まりましたので、今その方と最終的な詰めですね、地域がふれあうということできちんと伝えるということを今残した状態です。こちらのほうもただお願いすればいいということではなくて、大前提である地域がふれあう、心が響きあうということ伝えて、ただ作業をするのではなくて、いかに地域の人たちを巻き込んだ形でふれあう活動ができるかということをお伝えするというのが今残っているテーマです。こちらのほうもあとは代表の方と学校との橋渡しを我々がして、一応終結するかなという方向で今進んでおります。

後ろのほうに3ページ、4ページありますが、これはすべて経過になっておりますので、最後の解決に向けたというところは今つけ加えたものが入っているという状況

になっております。部会のほうでは、一応これで部会の役割を1つ終えたかなという形にしているのですが、このあたりもまだまだ足りないというご意見がありましたら、いただきたいということ。あと、もし委員の方でなかなか発言する機会もなかったということもあるかもしれないので、この場で何か補足すべきことがあればぜひ伝えていただければと思います。何かご意見があればお願いいたします。

委員 状況は今部会長が説明されたとおりなのですが、この2年間活動してきました、やっぱりここまでかなというところだと思います。次期にどういうふうにつなげていくかというところも検討したのですけれども、麻生区としては農に関する話、高齢者の話、こどもの見守りの話、この3本柱で基本的には継続的な検討課題になっていくだろうということで、今の状態でクローズして、ここまでやっていますというのを示して、また来期の方に検討をぜひ継続していただきたいというところを引き継ぎたいなと考えております。

委員 何か一言ありますか。

委員 農の専門部会を担当しました。やはり農はなかなか難しいなというふうに思いました。もうちょっとスムーズに事が運ぶのかなという感じで最初始まったのですけれども、ハードルが高いというか、いろいろな法律的な問題なんかもありまして、越えることがなかなか大変でした。

1つ、王禅寺小学校をモデル校として今回試みをさせていただいたのですけれども、もしこれが続けてほかの小学校にも同じようなことができればいいかなというふうに思っております。

それから、マップをつくるということで、市場のマップをつくりたいと思っていたのですけれども、これもセレサモスができるということで、ちょっと先送り、あるいは可能じゃない、不可能になるかなという感じなのですけれども。もしセレサモスのほうが大成功になるようでしたら、その後、マップづくりができるかなという感じを持っています。

市民農園のほうなのですが、これも貸す方と借りる方の間とか、その間を取り持つ方のいろいろな状況などがありまして、これもなかなかスムーズに進まなかったと思います。その辺のハードルを何とか越えていければ、この後続いていけるのではないかなと思います。次の方に期待したいと思います。よろしくをお願いします。

委員 それでは、ほかに何かご意見とかございましたら。

委員長 農のほうはいろいろな困難な問題を抱えて大変ご苦労なさったと思いますが、何とか王禅寺小も筋道がちょっとできたところということで、多分次の方へ橋渡しができるのではないかと期待しております。本当にありがとうございました。

それでは、ありがとうございました。部会長に今年度の取りまとめをしていただきました。

ただいま部会長から専門部会における調査検討結果のご報告をいただきましたが、これを受けまして、区民会議として2つ目の事例である「地元農産物と地域の交流」について取りまとめを行いたいと思います。

それでは、お諮りいたします。「地元農産物と地域の交流」につきましては、専門部会で調査検討した報告内容をご承認いただき、区民会議として取りまとめ結果といたしたいと思いますが、いかがでしょうか。あわせて本事例につきましては、これで第1期委員といたしましては、調査審議を終了することとしたいと思います。この点、よろしいでしょうか。皆様にお諮りいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 ありがとうございます。それでは、そのように取り扱いたいと思います。

{ 拍手 }

委員長 農の専門部会は、区民会議から付託されました調査検討を終え、区民会議への報告を完了したことでその役割を終えることとなります。部会の委員の皆様には長い間の調査検討、ご苦労さまでした。ありがとうございました。この後、地域と学校の連携窓口になられる方や、学校との調整が残っているようですが、こちらのほうは最後のところでよろしくお願いいたしたいと思います。

イ「高齢者」専門部会からの調査検討経過の報告及び事例の調査審議

委員長 続きまして、課題の調査審議についてのイ「高齢者」専門部会からの調査検討経過の報告及び事例の調査審議に移らせていただきます。

それでは、部会長、よろしくお願いします。

委員 きょうはかなりたくさん資料がありまして、皆さんと役割分担をしながら進めていきたいと思っております。45分間ぐらいいただいているので、この間は合図が見えなかったぐらいでございますので、時間がきましたら、みんながこっちをぱちぱちと合図をしていただけたらと思います。

まず、資料3の中の1ページ目でございます。「『高齢者』専門部会～調査検討経過について～」というところですが、裏表になっております。専門部会を全部で9回、そして勉強会を5回という形で、スタートが非常に遅い部会でございますので、本当に時間の足りなさを痛感しながら今日を迎えました。まずは最初に、前にもお話ししましたが、フリートークをしながら高齢者について皆さん話をした結果、まず大きく2つくりをつくらうということで、事例1、事例2という形をつくりました。元気高齢者の地域参加という項目から見まして、片平老人いこいの家のすべてをいろいろ勉強させていただこうということで、時間を費やしてまいりました。

いよいよアンケートをとれる段階になりましたのが、第7回専門部会、そのころに

やっと動いたといいますが、アンケートをとったり、いろいろなことが動き始めたという状況でございます。

資料がたくさんございますので、事前に皆様のお手元にお送りさせていただいて、お目も通していただいていると思います。それぞれのメンバーが待っておりますので、それぞれの部門を待ち構えております方へ振りたいと思っております。まず、3のところ調査検討シートがございますが、これからほかの委員の方が申し上げていくものと関連してまいりますので、最初にここは触れずに次に進ませていただきます。

それでは、アンケート結果の で、アンケート集計概要があります。5ページになりますが、ここの説明を部会員にお願いしたいと思っております。

副委員長 今、部会長からお話がありましたように、老人いこいの家について、これまでも全市的にアンケート、あるいは老人いこいの家の利用についてまとめられている報告等があるわけですが、麻生区だけというのがなかなかないということで、麻生区内にあります老人いこいの家6館についてアンケートをとるということで、作業を進めました。区内に6つの老人いこいの家があるわけですが、老人いこいの家を運営委員会を組織しています運営委員の方々、あるいはいこいの家を利用する利用者両方からアンケートをとって考えていこう、そんなようなことで、指定管理者のほうからそれぞれ運営委員に郵送でアンケートをお願いいたしました。それから、利用者につきましてはそれぞれの部会員6名が分担して6つの施設に約1週間かけてアンケートをとる、1人の委員のノルマが50人ということだったのですが、でこぼこはあったのですが、トータルで集計上300名を超すということで、利用者についてはいいのかなという感じがいたします。

それから、運営委員につきましては、89人の運営委員がいるのですが、回答を寄せられたのが60名という、これは後で具体的に出てきますが、そんなような回答を一覧表に、運営委員、利用者、両者が一目でわかるような形で表にしたのが5ページから7ページまででございます。これを見て両方比較しながらでも結構です。見ていただくことができるのではないかというふうに思います。

の領域では、自分自身について、アンケートに回答される自身について質問をした項目でございます。それから、 の領域につきましては、運営委員には、運営についてどうなのか、それから、利用者については、いこいの家の利用についてはどうなのかというようなことを項目として質問しております。

それから、 の領域では、運営委員については、行事等の企画、実施について聞いております。利用者につきましては、今後の活動についてどうなのかということ聞いております。

の領域につきましては、利用者のほうはアンケートをとっておりませんが、運営

委員の方々には、これからの活動についてということで幾つか質問をとらせていただいています。

というようなことで、この表からわかりますのは、問1の領域ですが、運営委員では男性の委員が多い、そして、利用者では女性の利用が多いという、そんなようなことがこのアンケートから出てきております。

それから、年齢につきましても、運営委員、利用者、似たような年齢で運営が行われ、あるいは利用がされているということがわかりました。

それから、運営委員に経験年数を聞いておりますが、大体 2～3年未満が多く、5～7年未満、3～5年未満という経験年数で運営委員を引き受けておられる。

家族構成につきましては、利用者についてですが、多くが配偶者と2人暮らしというのが利用者の中ではパーセントとしては高い。ひとり暮らしも15.4%という数字が出ております。

運営委員のほうに動機を聞いておりますが、圧倒的に団体からの推薦が多いということがわかりました。

住まいにつきましては、圧倒的に区内の利用者が多い。94%の区内利用者ですが、この区内でも多少の移動、例えば岡上老人の家を利用している人が片平の老人いこいの家に行ったりとか、そういう区内を移動して活動されている高齢者の方も何人かおられました。

利用者のほうに、老人いこいの家に来るだけではなくて、ほかにも活動しているのかというアンケートをとりましたところ、大方、参加している高齢者の方が多いことがわかりました。

利用者には、自分自身についてのアンケートの中で、何に一番関心があるのかという問いかけをしましたところ、健康についてが高いということがわかりました。

の領域につきまして、運営委員さんに幾つか質問していますが、圧倒的に、現状がいい、現状のままがいいという回答が多く寄せられております。

利用者につきましては、利用について聞いておりますし、例えば動機の中では、お友達からの誘いがあるといこいの家を利用し始めた、あるいは人づて、そんなような身近な方からの誘いがあるって参加をする、そんなような傾向が読み取れるかと思えます。

それから、運営委員に運営委員会の開催回数を聞いておりますが、現状のままが58.3%ということなのですが、6つの施設の中で年に1回しか運営委員会を開かないという施設が1施設ありました。そして、年に2回開くという施設が1施設、年に3回運営委員会を開くというのが3施設、一番多いのが年に7回開くというのが1施設あることがわかりました。非常にばらつきがあるのですが、何か一定の基準があるかというのかなというようなことを回数から感じ取りました。

そういうようなことで、それぞれの設問を読み取っていただきたいと思います。

そのほか、現状維持が多い中で、未回答も多いのが運営委員の中の特徴かと思えます。

次、6ページですが、幾つか運営委員と利用者との設問がダブるところがありますので、それは で参照という矢印をつけてありますので、参照して見比べていただきたいと思っております。

それから、 の領域ですが、運営委員には行事等の企画について聞いております。ここも現状維持というのが多かったり、あるいは回答を寄せられていない未回答が多かったりしております。

そのほか幾つか、いこいの家のあり方についてとか、イベントについて今後どうしたらいいのかという希望、あるいは生き方については両方聞いておりますので、ただ、設問の箇所が違いますので、見比べていただきたいと思っております。

最後、運営委員に聞いておりますこれからの活動についてという中では、利用者が求めていますような内容のことも運営委員が感じ取っておられるというのがわかりました。

それから、 の領域の中で、最後に区民会議についての意見を求めましたところ、未回答が60%ですけれども、回答のありました中でこんなような内容でコメントされております。区民会議としてはかなり厳しい内容のコメントもあって考えさせられるところが多かったような感じがいたします。

あと、詳細につきましては、他の部会員のほうからご報告をお願いしたいと思えます。

委員 ありがとうございます。

それでは、 、 、 に飛ばさせていただきます、27ページから始まりますが、まずは のアンケート用紙が利用者もありますので、それも皆さん見ていただいたと思いますが、部会員から利用者のアンケートに関して触れさせていただきます。

委員 何で老人いこいの家でのアンケート調査をしたのかというお話等が今ありましたので、省かせていただきたいと思えます。時間もさほどありませんので、重立ったところをかいつまんでアンケート結果、あるいは若干の考察についてご報告を申し上げたいと思えます。

問1から順次申し上げていきたいと思っております。利用者アンケートというところでございますが、利用者でアンケートに協力をしていただいた方が318名ございました。その傾向としては、先ほどもお話がありましたが、女性の方が多いという状況が見られます。年齢について申し上げますと、65歳から75歳まで、前期高齢者と言うのですか、ここに該当される方々が多いという状況がございます。ただし、85歳以上の方も結構おられますし、時間がたつほど前期高齢者が後期高齢者になっていくわけで

すから、いわゆる高齢者の中での年齢の高い方々の処遇というものをどのように考えていくかというのは、いこいの家のこれからの大きな課題になるのではないかと考えております。

家族構成についてですが、配偶者と2人暮らしという方がほぼ半分おられます。ただ、年齢が高くなりますと、女性の高齢者がおひとりで生活をされているという状況がありますから、この辺、気になります。

住まいについて聞きましたところ、区内からお集まりの方が圧倒的に多く94%ということでございます。

それから、いこいの家以外でほかに活動をされている方はどの程度いるのかという質問が問5でございますが、外へ行って活動をしているという方が62%ほどおいででございます。どんなことをしているかについては、内訳をごらんいただきたいと思います。

ページをめくっていただきたいと思います。問6、生活上一番気になっている、関心の高いことは何かということでお伺いをしましたところ、まずは健康、命あつての物種と、当然の結果が出てまいりました。それから、家族、趣味、運動というふうに普通は続くだろうと思うんですが、2番目に年金の指摘がございます。高齢者の方々が、経済的に不安を持って生活されている状況がここに出てきているという思いがいたします。

2番目の柱、いこいの家の利用についてでございますが、友人の誘い、人づてによって来ているんだという方々が圧倒的に多いようでございます。

それから、老人いこいの家に来る方法についてでございますが、徒歩で来られる方が63%、その中で70%の方々は徒歩で15分未満のところからおいでになっているということですから、これをよくよく考えていきますと、中学校区に1つという今のいこいの家の設置基準というのがどうかなというふうに思います。小学校区ぐらいに縮めていくのがいかがかということが問題指摘されるだろうと思います。

そのほか、その他の主な内訳のところを見ますと、バスで来られる方も結構おいででございますので、今申し上げたような要望が強くなるだろうというふうに思います。

いこいの家に通っている期間については、5年以上という方々が多いようございまして、比較的長期にわたって慣れ親しんでいる利用者が多いという状況があるようでございます。

ページを先へ行かせていただきます。回数についてですが、ちょっと設問に問題があったかなというふうな思いがしているのですが、週と月とを分けておりますが、週1回という指摘の人と、月に4回という指摘の人は、恐らく週1という同義の結果で考えておられるのではないかと。それ以外のところは月にかかわっての見解かなという

ところで、設問についてはちょっと問題があったかなという気がいたしております。

利用法についてですが、グループでおいでになって活動しているという方が圧倒的に多いようでございます。

これは大事なところですが、お集まりの高齢者の方々がどんなことをしてお過ごしになっているのかということでございますけれども、一番多いのが「その他」なのですね。回答が一番多い「その他」の26.1%の内訳は の中身になります。講座、囲碁、談話はその他以外のところの順位でございます。

問7、感想とありますが、ここも私どもは非常に大きな関心を持って見させていただきましたが、「満足している、やや満足している」、合わせまして90%近くということでございます。その理由を伺いましたところ、楽しく過ごせています、安心して、清潔で、気持ちよく過ごせています、近場にあるので比較的便利に来ることができます、仲間、友人との交流ができますというようなことで、圧倒的に満足されているという方が多いようでございます。片や、不満のほうでございますが、8.5%ほどおいでなのですが、施設、設備の関係、開館時間の関係等、お茶の葉っぱとか、石けんとか（石けんというのはお風呂で使うものですが）、これらのサービスがなくなってきて寂しいということをお伺いしております。それから、管理人の方の応接に問題を感じていますという方もおいでのようでございます。

ページをめくりまして、利用を高めるにはどうしたらいいのでしょうかという問いに対しては、魅力ある講座の設定がまず大事だということ、それから、広報の手だてを尽くさなきゃいけない、友人を誘うという手だても考えなくちゃいけないし、高齢者情報のキャッチにも気をつけなければいけない。なお、ここでOA機器の設置8.3%は、パーンページは少ないのですが、6つの施設が全部ファクスもない、コピー機もない、PCもない、今こういう状況の中にあるいこいの家はいろいろな手だての関係でおくれているのではないかという懸念を私自身は感じさせていただきました。

それから、男性の参加が少ないということの中で、増やすにはどうしたらいいのでしょうかということですが、それは問8とも関連があるようでございます。友人を誘うとか、魅力ある講座だとか、広報の充実だとかといったことが指摘されております。

10番目の名称でございますが、これも私どもは大変関心を持って見守ったわけでございますが、回答があったのが35%ほど、未回答が65%と、未回答が多かったのですが、関心が薄いのか、名より実をとると考えられているのか、回答のあった方の内訳を見てみますと、「老人」という漢字2つを入れるのはやめましょうよ、それをとって「いこいの家」という、簡潔に、まさに集まる楽しい場というイメージでいったらどうなんでしょうという方が圧倒的に多い感じでございます。

それから、今後の活動についてですが、今後いこいの家のほかにどんな施設や団体ができればよいと思いますかという設問はちょっと問題が難しいというか、つかみ切れ

なかったというか、そういう傾向があったようでございます。未回答が75%ほどあるわけですが、現状肯定で、いこいの家でいいんだよというふうな思いもあるのかなという気がいたしました。

回答があった26%ほどの分析をしてみますと、少人数で集まれる場が欲しい、趣味、サークルができる場が欲しいということのほか、野外のグラウンドなども欲しいとか、サロン、自由に話せる場などがあったらいいねという指摘がございます。

それから、これからのあり方についてですが、問2ですが、現状どおりでいいというのが約20%、5分の1がそうです。それ以外に、改善を必要とするというのが2から7までということになりましょうか。その中では、他の施設を増設してほしい、つまり、いこいの家以外の施設をつくっていただきたい。それから、5番目は施設増ですから、いこいの家をふやしていただきたいということですね。そのほかに、開館している時間を延ばしてくださいといったことなどが要望としてあるようでございます。その他が8.5%ありますが、この中身を見ますと、駐車場をつくってほしい、送迎バスを考えてほしい、サロンのように自由に使いたいというふうなことなどが指摘されております。

これからどのような生き方をしていくのがいいでしょうかということの中では、まず、仲間のいる生き方を考えたい、趣味をきちんと持てる生活を考えていきたい、そのほか、地域活動にも参加したいし、生涯学習も進めていきたいというふうな回答もございました。

以上、非常に大ざっぱに調査結果を見てまいりましたが、33ページをごらんいただけますでしょうか。これらを考察したものがそこに書かれてありますが、これらをベースにして要望を申し上げるというふうなことでございます。活性化に向けた提案ということにつながってまいりますが、ちょっと33ページを申し上げたいと思います。

1のところは問題ありませんね。

2番目も先ほど申し上げました。後期高齢者がこれからどんどんふえてくるので、それへの対応がこれから大事になるのではないかとということですね。

ページをめくっていただきまして、方法からのところですが、現在は徒歩で来ているんだけど、徒歩で来られる方々もだんだんと高齢化していくというふうになると、歩いてくるという作業がちゃんとできるだろうか。できなくなってくるとすると、それに対する手当が必要になるのではないかと、送迎バスだとか、ボランティアの手伝いというふうなことなどが考えられます。先ほど申し上げましたように、そう考えていきますと、中学校区に1つということではなくて、小学校区に1つという考え方が大事になってくるのではないかと思います。

それから、問6、過ごし方からのところで申し上げますと、講座に参加して過ごすという回答が一番多いのですね。ですから、講座の質的吟味というものが絶えずつい

て回るということ意識しなければいけないということ、それから、介護予防関係で、ミニデイ、あるいはリハビリへの利用参加が少ないけれども、これもきちんと対応する準備はしておく必要があるのではないかと感じます。何よりも高齢者の活動の場として、知的、体力、精神力、感性を磨く場であってほしい、そのための準備が必要ではないかということでございます。

感想から、先ほど申し上げましたように、満足されている方が非常に多いのですが、背景には管理人の気配り等もあるのかなというふうな思いがいたしております。

利用増というところでは、先ほども申し上げましたが、ファクスとかパソコンだとかコピー機だとかといったようなものは、前にもちょっと申し上げたことがあったかもしれませんが、いこいの家を参観させていただいて、もう少し行政サイドから責任を持って施策を進めるという意味で、お金をもっとかけるという姿勢が大事ではないかというふうな思いがしております。何ともこの時代にコピー機もファクスもないというのではお話にならないという、ちょっと言葉が過ぎたかもしれませんが、そんな気がしないでもありません。

それから、名称については、先ほども申し上げました。「老人」をとっていただいて、「いこいの家」というのがいいのではないのかという圧倒的な考え方ようです。市のほうでは「長寿ケアホーム」という名前を広めたいという意向のようですけれども、皆さんにはなかなか認知されていないのではないかと感じます。この辺、一考を要するのではないかと感じしております。

それでは、ページをめくっていただいて、36ページですが、まとめがございます。何度も言葉が重なるようですので、まとめについては触れません。今までご報告申し上げましたアンケートの実態と状況と、それから、私たちの考察、それらをもとにこういう点を改善してくださいというお願いを後で他の部会員がまとめて報告されると思いますので、そちらを検証していただきたいと思っております。

委員 ありがとうございます。

それでは、アンケート結果 から にかけて、他の部会員にバトンタッチします。

委員 私のほうからは運営委員向けに行いましたアンケートにつきましてご報告させていただきます。

まず、23ページからアンケートの内容が何枚かございまして、また、9ページからはアンケートの集計表、17ページからアンケート考察ということで、それぞれの部分で見ながら、あるいはどこかの部分を見ていただきながら、お聞きいただければと思います。

私のほうでは、アンケート集計表のところをもとにしまして、それにアンケートの考察を多少つけ加えながらという形でご報告させていただければと思います。

まず、運営委員の人数につきましては、先ほどお話がありましたように、対象者として6施設89名ということで、こちらの中の回答者数が60名、回答率67.4%ということです。この対象のなる方々の男女比なのですけれども、こちらは男性が59名、女性が30名の運営委員の皆さんにアンケートをお配りいたしまして、回答をいただいたのが男性36名、女性23名ということで、ほぼ同じ男女比でご回答いただいているという形になります。

アンケートの内容につきましてご報告でございますけれども、まず、運営委員のご自身のことにつきましては、性別、年齢、運営経験、きっかけ等、先ほどご報告がございましたので、こちらはごらんいただくのみということで、次に行かせていただきます。

運営に関してですけれども、運営委員の人数が15名前後ということで、それぞれ現状のままでよいのではないかというご意見が圧倒的に多いのですけれども、それでも多いところは18名、少ないところでは13名ということで、ばらつきがあるというところで、何かこちらのほうは人数、あるいは選出母体など規約などである程度決めたらよいのではないかという意見も出ております。

運営委員会の開催回数ですけれども、先ほどのご報告にもありました。多いところが7回、少ないところが1回という形で、こちらについてもばらつきがありますので、これについてもある程度回数を決めたほうがよいのではないかという考察をしております。

利用時間につきましては、現状で改善してほしいという要望はそれほど多くはなかったのですけれども、要望としては、平日の時間延長というのが多かったという結果が出ております。今後、超高齢化社会を迎えるわけですけれども、また、団塊の世代の方々が地域活動への参加をされるということで、やはりお仕事をもちながらも活動されるという方々がふえていくことが考えられますので、時間延長というのはこれから必要になってくることかと思われまます。

次に、設備につきまして、現状でよいというのが約半数のご回答なのですけれども、それと数は多少少なくなります、要改善というところで40%の方々が意見を出されています。その改善する内容につきましては、それぞれの施設で課題がいろいろあったり、あるいは設備で修繕箇所等のご希望がそれぞれというところもありますので、内容は多種多様でありました。

続いて、運営費につきましては、現状でよいというのが、こちらでも約半数、現状のままでということなのですけれども、それでも要改善というところで43.3%、こちらのほうも数としては要改善の数は高いかと思われまます。特に圧倒的に多い内訳としては、予算の増額ということが挙げられております。

続いて、活性化への取組みにつきまして、未回答も多いのですけれども、広報への

取組みというのが一番多く、また、新しい教養講座の企画というのが続いて多いということで、回答は全体的に分散しておりますけれども、考えられることとしては、やはり広報というのが地域等外に向けた周知という活性化への取組みということと、あとは教養講座などの新しい企画ということで、内部の取組み、中へ向けた活性化への取組みという、大きく分けてその2つかと思われまます。

その他につきましては、それぞれいろいろな取組みがありますので、ハード面、ソフト面、両方ありますので、こちらについてはそれぞれの運営委員会の中でご検討いただいでいくのがよいのかなというところでございます。

その次の、いろいろと取組みをしたけれども、できなかったというところで、どのようなことが理由に挙げられるかという設問で聞いておりますけれども、こちらにつきましては、未回答がかなり多うございました。それでも回答があったものの中としては、資金不足、あるいはいこい家の諸規程に触れるということで、なかなか実現できなかったという内容が寄せられております。

改善点につきましては、こちらも未回答が多かったのですが、それぞれ回答があったものの中では、運営委員会が機能していないという回答が、一番多いというところをやはり問題視していつて、改善にこちらのほうには力を入れていくべきかと思われまます。

続いて、必要なボランティアなどにつきましてはの設問ですけれども、こちらも未回答が60%ということで多いのですが、回答があった中の40%の内訳としましては、相談・話し相手である、こちらが多かったということで、管理人さんが現状としては今1人でやっていらっしゃるということがございますので、管理人さんがお1人の方にかかわったり、あるいは何かをされていらっしゃると、ほかの方に対処することができなかつたり、話し相手になるということがなかなか難しいというところで、この回答が多かったかと思われまます。

続いて、行事などの企画についてなのですけれども、おおむね教養講座、あるいは自主講座等につきましては、うまくいっているという答えが返ってきております。ただ、うまくいっているという中でも、こちらの講座については、それぞれ企画運営をされていらっしゃる方たちのご苦労があるようですので、また、その講座、あるいは自主講座のほうについてもそれぞれ内容、あるいは今現在行っているものについてはうまくいっているということでございますが、1つの講座を継続するのが3年限度という縛りが今ありまして、そちらのほうがそのままよいかどうかというところが現状のままでいいかどうか、見直すほうがいいのかどうかというところをご意見として出ております。

自主講座についても同様なのですけれども、現状どおりとする回答が81.7%と圧倒的に多いんですけれども、改善したほうがよいというものも15%ありまして、その要改

善の具体的な理由というのがそちらに書かれている形なのですが、初めての人はグループに入りにくいですとか、それぞれ内容につきまして固定化になってしまうのではないかというふうな懸念もありまして、改善したほうが良いというような方向もあるようです。

続いて、そのあり方についてなのですが、上の部分の回答と同じような形ですが、初めての人を入りやすくする配慮ですとか、オリジナルな講座で競うですとか、抽選にするですとか、そういうようなあり方を回答いただいている方もあります。

行事・イベントにつきまして、それぞれいこいの家では独自のお祭りなどの行事を行っているところが多いようで、こちらの回答では63.3%のところでは、行事・イベントをやっているという現状です。

今後どのようなものを実施してもらいたいかという内容につきましては、未回答が圧倒的に多かったということですが、回答があったものについては下にあるような内容で回答をいただいております。

これからの活動につきましては、まず活性化については、先ほどもありましたけれども、広報に回答した委員が一番多く、続いて、魅力ある講座の企画・実施というところ、近隣の人を誘う、OA機器の設置、道案内の表示、利用時間の延長等、利用者の年齢を下げるなど、それぞれ回答がございまして、やはり広報というところが今後もっと力を入れていくべきかと思われまます。

男性の利用増ですけれども、こちらにも未回答が多かったのですが、男性向けの講座、イベントの実施等が一番多く回答がありました。

名称につきましては、先ほど利用者アンケートのほうでも触れられましたけれども、回答があったのが60%、未回答が40%でございますが、そのあった回答の中では、「老人」という言葉をとるという形で、「いこいの家」というのが一番多い回答でした。あとはそれぞれの地域の名称プラスいこいの家という形、こちらが一番多かったようです。

必要な協力としましては、回答ありが61.7%、未回答もありましたけれども、一番多い内訳としましては、行政の協力を望んでいる運営委員さんが多いということと、地域の人に協力を望んでいる方が多い、そして、町会自治会が3番目に多いということで、それぞれ協力をお願いしていければということで、後ほど提言もあるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

問5の生き方につきましては、趣味と友人関係がそれぞれ26.3%ということで、生き方を挙げていらっしゃる方が多いという結果になっております。また、以下、ボランティア、社会貢献、生涯学習というふうにございますけれども、それぞれ皆さん方、年齢が高くなっても活動を続けていきたいというような気持ちのあらわれかと思

います。

区民会議に対してのご要望等ですけれども、未回答60%、40%の回答ということで、以下のように挙げられておりますので、こちらをごらんいただければと思います。

全体的な考察としましては、運営委員の皆さんについて、それぞれの運営をしていく上で、やはり規程の縛りですとか、予算面の縛りですとか、そういったことで活性化につなげたいのだけれども、なかなか難しい部分があるということがわかりました。また、現状でよいという回答がいろいろな設問で多いのですけれども、それでもそうではないという回答の中からうかがえるのは、やはり改善すべき点が見えたように思います。先ほども申しあげましたけれども、予算面ですとか、規程の部分につきましては、今後改善の形で取り上げていただければと思います。

運営に関して、それぞれのいこいの家の運営委員の方々は、それぞれで考えながら活動していらっしゃるかと思うのですけれども、考察のほうの20ページ、21ページにわたります運営に関してということで、特に(2)の老人いこいの家の健全の運営を目指して、次のような委員の役割がアンケートから読み取れるという部分、また、21ページの(3)の部分、アンケート項目にはないのですけれども、このアンケートを実施した中から考えられるような取組みということで、こちらのほうにも提案を載せさせていただいております。

また、具体的なハード面、ソフト面の提言というのは、この後、詳しくご説明があるかと思っておりますので、私のほうからは、運営委員のアンケートについてのご報告ということで、以上とさせていただきます。

委員 それでは、(4)になりますが、「老人いこいの家」の活性化に向けた提案、41ページになります。説明をよろしく願います。

委員 随分時間も使っておりますので、簡単にかいつまんで申し上げたいと思います。

今回、調査をいたしまして、老人いこいの家というのを初めて見たわけですね。それで感動したとか、感激したのは、参加者の方々は非常に生き生きとしていらっしゃいます。この一言ですね。しかしながら、利用者はこの対象となる年齢の10%以下なのです。そこに大きな問題があるというふうに思います。これは私の個人的な見解ですけれども、高齢者の活動なくしてまちづくりはない。いかがでございましょうか。と私は思います。したがって、このいこいの家に参加されている方、元気高齢者の方々がますます元気でいらっしゃっていただきたい。それとともに、このアンケートの中からも読み取れるように、元気高齢者の方は単に体を鍛え、心を鍛えるばかりではなくて、社会参加をしたいんだという希望が多々見られます。そういうところを踏まえながら、これから老人いこいの家の活性化に向けた提案を具体的にしたいと思います。

この表は既にごらんになっているとおりでして、問題解決の担い手はだれだ、それから、解決の期間というのは短期、中期、長期に分かれていまして、かなり具体的にあっております。ハード系、これが41ページですが、その中の施設の問題ですね。先ほどからありましたけれども、現在はたまたま中学校区に1カ所しかない、それを中学校区に2カ所、つまり、小学校区へ1カ所というふうなことで、もっとみんなが身近に通えるような距離で利用していけたらいいのではないかと、そして、交通の便利な場所ですね。今、静かな場所にあります。それは昔はそれでよかったのですが、今、今は静かなところというのは危険なのです。そういう場所ではなくて、もっとにぎやかな場所にこういうものをつくってもらいたいということです。これは解決までの期間はかなりかかります。長期です。

それから、「ミニいこいの家」づくりということになっています。先ほどから何回もお話が出ておりますけれども、どんとした施設ではなくて、もっと軽く、わくわくプラザとか、こども文化センター、町会・自治会会館だとか、空き教室とか、空き店舗だとか、こういうところに4～5人で集まって、いつでもお話し合いができる、お茶でも飲めるというものがもっと身近にあるべきではないかという考え方ですね。

第3番目に増改築があります。施設を増築してくれと。どうしても活動のスペースが小さいよ、狭いよというふうな要望があります。それから、施設の中で改築を要する場所としましては、浴室があります。浴室には当然ボイラーという施設がないと浴室は成り立ちませんから、ボイラーのスペースも非常に大きいんですね。この辺のところ、既に浴室をやめてしまったところもあります。しかしながら、6カ所あるうちの5カ所には浴室があります。これを活用するために、もっと部屋を広げるために、これをやめてもいいのではないかとというふうな考え方です。

は内装です。これがつくられましてかなり年数がたっております。したがって、張られているカーペットとか、壁のところとか、そういうものが老朽化したり、割れてあって、それを管理人さんが補強しているというのは多々見られます。そういうものをもうちょっときれいにしてもらいたいという要望です。

設備、これは1番と2番がありますけれども、先ほどありましたが、電力容量、要するにアンペアが小さいのです。今のこの時代にはアンペアをもうちょっとふやしてもらいたい。しかしながら、これも規則があってできないという、その規則を取っ払ってもらいたいということですね。

備品、先ほどありましたが、ファクス付きの電話。今、電話はありますが、ピンク電話です。これで管理人さんも対応しているわけですね。それから、利用者もここにかけられているということで、ピンク電話は今ほとんど町中にもありません。ぜひファクス付きの電話にしてもらいたい。それから、OA機器、少なくともコピー機はないと、今何もできないという状況です。この辺の設備とか備品に類するものは、これは

短期で、1～2年の間に解決してもらいたい。これは担当はずっと行政というところになっています。ぜひお願いしたいと思います。

4番目、駐車場です。これは送迎して駐車する場所がないのですね。したがって、遠くから来られる人、これは送り迎えをしてもらっている、あるいはタクシーで来るということでしか対応ができないという、今非常に問題であります。この辺もオールドファッションなんですね。

それから、案内の表示、これもどこにあるのかわからないのですね。私は王禅寺のいこいの家のアンケートをとったわけなのですが、王禅寺のわずか20分ぐらいしか離れていない人が、初めて来るには、どこからどういうふうに行くのかわからない。したがって、1時間かかって来たということが、私がアンケートをとっているうちに現実になりました。そのくらい、場所がわからないのです。

その次の42ページ、これはソフトの関係です。送迎、これは高齢者がもっと進みます。そうしますと、来たい人も来れなくなる。したがって、何とか送迎ボランティアシステムの利用ができないかというふうなことであります。

7番目が広報・PR、いこいの家のPRというのは非常に少ないです。この2階のところに、子どもさんのPRをするいろいろな施設のコーナーがありますけれども、高齢者の関係のコーナーはないのですね。したがって、高齢者がどこに行って、どうすれば、いこいの家ばかりではなくて、せっかくの施設を利用できるかということがほとんどわからない。そういう意味の広報のやり方をもっと充実してもらいたい。

ボランティア、特に運営ボランティアですね、相談にのってあげたり、話し相手になってくださるようなボランティアが欲しいのですね。したがって、学識があるとか、そういうことではなくて、ほんのお茶飲み友達の人がここにもうちょっとボランティアとして来れないかということです。そのために町会自治会、最寄りの地域の関係の方々からボランティアを派遣していただきたいという要望です。

講座については、いろいろありますけれども、魅力ある講座ということなのですが、今は基本的に無料なのです。もうちょっといい講師を呼びたいといっても、これは不可能なのです。したがって、利用者の中には、少しお金を負担してもいいから、もっとましな講師を呼んでもらいたいということを言っているわけです。これも縛りをブレイクしないといけないところであります。

開館時間、これを何とか当面午後5時まで。今、4時までですけれども、実際には4時に全部閉館しなければなりませんので、3時半ぐらいまでしか実質は利用できないのです。したがって、4時をあと1時間延長してくれないかという要望です。夜間とか、休日、祝日、こういうものを条件つきで開館できないか。そうしますと、地域にもうちょっと開放できるということになるわけです。

それから、名前は先ほどから出ております。

資金のこともここに書いてあるとおりです。

利用者、これは利用者の年齢をもっと下げられないかという要望です。もう1つは、利用者の家族も一緒に来れないか、利用できないか、高齢者が利用する場合も一緒に家族の人も付き添いに来られた方も利用できないかという意味です。

運営委員会の機能の見直し、委員構成、任期とか、運営委員会を開催する回数とか、選出方法、これについてももうちょっと内容を活性化するためには見直したほうがいいのではないかと提案です。

職員体制、これは職員体制の見直しとなっていて、ここで言っているのは管理人の体制ですね。管理人は2人います。しかしながら、交代勤務です。1日1人しかいないのですね。高齢者を扱っておられる施設でもって1名しかいないということは、何かあった場合にはその人が動きますから、そうすると、だれもいなくなるのですね。そういうふうな体制でいいのかということに対する1つのお願いです。

それから、情報交換というのは、利用者の懇談会、は運営委員同士の情報交換会ということの要望です。

17番目の諸規程ですね。規程があります。この規程によって円滑な運営が行われているわけなのですが、今もう古くなってしまっていて、規程が現状にマッチしないということが多々ありますので、これをもう1回見直して、現状、さらにもっと進む後期高齢者に対する施設になるためにも、この規程を見直してもらいたいという要望です。

期間についてはその右にあるとおりですので、これは説明を省きたいと思いません。

以上です。

委員 それでは、5番のところの課題解決のための調査検討シートの第2の高齢者の見守りというところが43ページに出てまいりますが、そのところを部会員に触れていただいて、あとは私がまた受け継ぎますので、包括支援センターの方々からのいろいろ資料提供もいただいております。これはきょう皆様のところにはお配りしておりますので、高齢者部会のメンバーは全員持っておりますが、どうぞ。

委員 それでは、今回、先ほどから部会長が申し上げますように、元気高齢者の地域参加と、それから、高齢者の見守りという、2つの課題を私たちは取り組むことにしておりますけれども、先ほどから申し上げますように、元気高齢者の地域参加というところで時間切れといいたいでしょうか、ここで、この後の高齢者の見守りというところまでは進めなくなってしまったのです。出発が遅くなったせいか、本当は高齢者の見守り、ここもとても大事なところなのですが、ただ、最後のほうでお話し合いだけ行われました。地域には元気で地域の活動に参加していらっしゃる、例えばいこいの家で生き生きと生活していらっしゃる方、それから、お元気でも家の中に閉じこも

っていらっしゃる高齢者、そして、虚弱体質で家の中に閉じこもっていらっしゃる、そういう高齢者もいらっしゃいます。元気で家庭に閉じこもっていらっしゃる方というのは、世の中にぜひ参加していただきたいのですけれども、ご自分から地域に向かって戸を立てているというような、そういう方もいらっしゃいますので、できましたら、元気でいつまでもその地域で安心して生き生きと暮らしていただくには、世の中といいましょうか、地域にぜひ目を向けて、ご自分から参加していただく、そのようなことを私たちはお手伝いできないだろうかというところまで本当は進んでいきたかったのです。

現在行われておりますのは、この2番にも書いてありますように、行政が取り組んでおりますのは、虚弱な高齢者に対して緊急通報システムということで、何かありましたら連絡する、例えば急に体のぐあいが悪くなったらボタンを押して、セコムとか、そういう登録しているところに通報を行って、そちらから駆けつけていただくとか、あんしん見守り事業といって、虚弱な方々を見守っている事業、それから、福祉電話相談事業、これは例えば何曜日の午前中に福祉電話、ひとり暮らしの高齢者の方々に、お元気ですかというようなお電話を差し上げるシステム、それから、老人クラブ友愛訪問活動といまして、老人クラブで地域の中の虚弱な高齢者を元気な高齢者の方々がグループをつくって見守りとして訪問する、そのような活動だとか、ボランティアの方々がまた訪問して見守ってくださるとか、わたしの町のすこやか活動とか、そういう運動をなさっている、そういうのもございますけれども、何とかして地域にぜひ出ていただきたいということで、今、地域包括支援センターが極力そのような方々を何とか地域に出させていただいて、例えば孤独死だとか、そういうのを1人でも防ぐために、地域の方々と連携をとって見守りたいというようなことで、今、地域包括支援センターのほうも頑張っております。

私たちも何とかして地域に参加できる、そういうシステムづくりといいましょうか、そういうことができないだろうかということで、今後ぜひ時間があったら話し合いたいところだったのですけれども、そこになって時間切れとなりましたので、本当に残念です。まだその時点まで行き着くことはできませんでした。本当に申しわけなかったなというような、皆様に対しまして2つテーマを掲げていたのに1つしかできなかったのはまことに申しわけなかったなという気持ちでいっぱいでございます。

以上でございます。部会長にお返しいたします。

委員 もともと区民会議の中で話が出ておりました向こう三軒両隣今再びと言って、防災のときに本当にそれが大切なんだよということなのですからけれども、きょう皆さんのお手元に、包括支援センターがどこにあるのか、包括支援センターというのはどういう役割をするのか、それから、認知症というのはどういうことなのかという資料が先ほども追加資料がついております。これは私は今ここですべては申し上げませんが、と

にかく地域の方たちが仲よくしなければ何も解決していかないということの事例がここに絵が出ておりました、地域の方たちが1人のお年寄りを見守っているという、漫画のようなものがあるんですが、これがまさしく今麻生区の人々にそれぞれが持っていたきたい、お節介と思うかもしれないけれども、心にかけるということが少し少な過ぎるのではないかなというふうに思っております。

私はこの間の区民会議フォーラムのときに、まだ実施をしておりませんでしたので、ご報告はしませんでしたけれども、やはり回覧板組織とか、小単位の組織での皆さんの力の出し合い、それから、顔を知り合うということがいかに大事ではないかという話を再度高齢者部会の中では申し上げてきたのですが、実は3月9日に、フォーラムでもお1人の方がチラシを見せてくださったと思うのですが、食べて遊んで話してつなごう手と手というのを実行いたしました。これは片平町内会、麻生の消防団の方、地域の消防団の方、麻生消防署柿生出張所、地域振興課の方たち、いろいろな方たちのお力をいただきまして、実際に1つの回覧板組織だけでなく、4つの回覧板組織に声をかけまして、1カ所に集まってもらって、一緒にごはんを食べるとか、いろいろなことをしてみました。

その中で一番おもしろかったと言ったら何なのですが、この区民会議の委員の方も、きょうおいでいただいたお1人お1人は、どういう団体からお出になっているということと、お名前はご存じかもしれませんが、それ以外のことはまずお話をしないで多分日ごろ解散していらっしゃると思うのです。この回覧板組織の方たちは、30年、20年住んでいる方たちがいっぱいいたのですが、ゲームとして、全員の方に自分の名前を言って、サインをしてもらってきてください、そして、少々話をしてきてくださいというゲームをしたら、それが大変いい効果が上がりまして、今までしゃべったことがないことを話せたという。その後、アンケートとか、皆さんに感想を聞いたら、あれから地域でふれあったときに立ちどまる時間が5分長くなりましたというお声をいただきました。こういう実験的なものなのですけども、やはりすごく大切なのではないかと思っております。

区民会議の委員の方々から、皆さん、忘れちゃったかもしれないのですが、高齢者に関する提案課題という項目を出していただきました。この中の地域に生かす区民の力ですとか、こういうものは今回のいこいの家のアンケートの中にも非常にいいアイデアなんかも出てきて、それがこれから進んでいくのではないかなと思います。

それから、高齢者の安心な生活を支える対策ですとか、今回余り触れられなかったのが学校教育というところなのですが、これは社会福祉協議会とか、麻生区の地域福祉推進会議では、学校教育の中の高齢者の方とのふれあいのことがかなり取り上げられてお話には出ているので、区民会議にはちょっと取り上げられなかったのですが、これも前に進みつつあるということではないかと思っております。

それから、外国人の方の共生社会というところですが、本当はいろいろなことをしたかったのですが、これも時間がとれずに、いこいの家にも果たして地域の外国の方たちがお見えになっているのだろうか、見えられない理由にはやっぱり言葉の点もあるので、もしそこにボランティアとしてそういう言葉を話せる方たちがお茶を飲みにくるような形で携わってくださったらもっと、よりそういうことも盛り上がっていくのではないかな。

それから、高齢者ののんびりくつろぎ生きがい広場ということを言ってくださった方がいるのですが、これものんびりくつろぎとなると、既存の施設では賄い切れない。例えばちょっと一杯飲みたいなとかというのは、今の既存のところではできないので、地域の施設ですとか、そういうところではなくて、民間のレベルとか、お店の協力をいただいて、何曜日の何時から何時までは高齢者の方たちがふらっと来てもオーケーみたいな、そういうことが触れられればいいなと思います。

それから、高齢者の多様な居場所づくりと地域づくりというのも、このいこいの家のアンケートの中でもいろいろ出てきて、これも進みつつあると思いますが、小さなコミュニティ、10分程度で通えるものを、設備はそんなに整わなくてもいいけど、欲しいという、そういう意見とつなげられるのではないかと思います。

それから、民間の方の場所提供というのも、こういうところからつなげていかれるのではないかと思います。

あと、市民の交流、地域の福祉の担い手云々という項目、協働活動できる場の提供ということも出てきております。区民会議の委員の皆さんのご意見。これもいこいの家も時間的にそういう場所もとれるのではないかと、あるいは高齢者の方、さっき報告でも申し上げましたように、高齢者があって地域づくりということで、まだまだお家にこもるのではなくて、どんどん外に出て、影響を及ぼしていただきたいと思えます。

私ども、先ほど、ごめんなさい、できませんでした、要介護というふうにおっしゃられたのですが、私は全然あきらめておりませんで、無印になっているシートのところなのですが、おミカンの汁で書いてもしあぶり出しができるのであれば、ここに書き込みたいなということ言葉を申し上げていきたいと思っております。

まずは皆さんからたくさん出ておりました送迎ボランティアのことなのですが、これは今も社会福祉協議会さんのほうですとか、民間、NPOの方たちとか、麻生区の中で既に活動されている方たちがいらっしゃいますが、それが前になかなか進まないということの内容をやはり少し把握したほうがいいのではないかと。その1つとしては、まずボランティア育成というのは、どんどんこれからも課題としてやり続けていただきたいと思っております。それは社会福祉協議会であったり、高齢者担当の行政の方のアイデアでそういうことをしていただいてもいいと思いますが、まず、育

成というのはできやすいと思うのですが、ここから資金源ということになっていくと思うのです。その資金というのは、私も正しく把握していないので、もし違っていたらまた訂正していただきたいのですが、送迎ボランティアの育成をします募集をいたしまして、皆さんが集まってこられて、その方がそれぞれの活動に立たれるまでには、検定試験とは申し上げませんが、何かお勉強をしなければいけないシステムがありまして、もし違っていたら申しわけないのですが、個人負担で何万円かをお払いになってお勉強をしていらっしゃるように伺っています。その会場まで行く交通費は自前だそうです。この交通費は自分たちがやりたいボランティアだからこれはいいのではないかと考えていらっしゃるのですが、その先のことに関しては、これは社協さんなのか、行政なのかわからないのですが、年間3人ぐらいのお金は持ってあげて育てていくという形にしていけないとうまくいかないかなと思います。

時間もありませんので最後に申し上げますが、どうぞ、勇気を持って、声を上げていただきたいということを申し上げさせていただきます。特に要介護の高齢者の方たちを考えると、これは麻生区全体の住民にかかわることかと私は考えています。まず、町会自治会の方々、民生委員の方々、ヘルパーさん、包括支援センターの方、行政の方々、どうぞ冷静に考えてみてください。今の状況で防災の際にすべての方にいるいろんなことが案内が網羅できるのでしょうか。やはりできないことはノー、はっきり言われないと、一番最終的に困るのは麻生区の住民1人1人かと思えます。できない理由をそれぞれの方たちは共有、同じことだと思えるのです。1つは、町会自治会に入っていない方がたくさんいらっしゃるということ、これをできれば全員の方というのは非常に乱暴かもしれませんが、麻生区全員の方たちが町会自治会に参加をしていただける状況をつくっていくには、きょうは市会議員、県会議員の方もいらっしゃいますが、これは区民会議のサイドではなくて、そちらサイドに振りますので、どうか党派を超えて、条例とかいろいろなことがあるかと思いますが、そういうことも取り入れていただかないと、せっかく民生委員さんのすばらしい活動、町会自治会の防災に対する取組み、包括支援センター、ヘルパーさん、いろいろな地域のボランティアの方の取組みがあっても、それが届かないという状況をぬぐい去らなければいけないというので、これはすぐさま皆さんで考えなければいけないことかと思えます。

それから、大きなマンションができます。新しい町ができます。その方々が単一の自治会はつくっていらっしゃいますけれども、それが全体につながっていない。それから、大きなマンションや何かができるときに、セキュリティーの問題で、その中に入っていけないということがあります。これも条例かと思いますが、大きなマンションを建てたり、そういうことを許可するときの条例として、その中にはこのぐらいの人数のマンションができたり、このぐらいの人数の地域の世帯数ができたときに

は、そこからは必ず民生委員を選出しなければならないという、これも条例ができていないために、包括支援センターの課題の中に出ておりますが、民生委員不在のところがあるということで、かなり問題点かと思っています。

人が町を温かくする、町が人を温かくする、それは人と人とのつながり、これから先が多分区民会議でいろいろ出てきたものを実際の形にするのだと思うのですが、みんなきっかけを密かに待っている。だれもが自分が先んじてやるということが今できないので、どうぞ、しゃべりにしゃべりまくりましたけれども、要介護の方たちのことを考えて、いろいろ言わせていただきました。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。

ただいま高齢者部会の皆様から専門部会における調査検討結果のご報告をいただきました。本当はここで少しご意見をいただきたいところなのですが、時間が30分近く経過してしまったものですから、特に何かございませんようでしたら、これで取りまとめをさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。高齢者部会の方々には、精力的にアンケート等を分析していただきまして、本当にありがとうございました。これを受けまして、区民会議として、3つ目の事例である「高齢者が輝く地域づくり」についての取りまとめを行いたいと思います。

それでは、お諮りいたします。「高齢者が輝く地域づくり」につきましては、専門部会で調査検討した報告内容をご承認いただき、区民会議としての取りまとめ結果といたしたいと思いますが、いかがでしょうか。あわせて、本事例につきましては、これで第1期委員としましては調査審議を終了することとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 それでは、それでまとめさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、高齢者専門部会は区民会議で付託されました調査検討を終え、区民会議への報告を完了したことで、その役割を終えることとなります。部会の委員の方には長い間の調査検討、ご苦労さまでした。この後、指定管理者への報告等残っている事項が若干あるようですので、こちらのほうはよろしくお願いいたしたいと思います。

### 3 報告

#### (1) 平成19年度麻生区協働推進事業実施結果及び平成20年度麻生区協働推進事業実施計画について

委員長 続きまして、報告(1)平成19年度麻生区協働推進事業実施結果及び平成20年度麻生区協働推進事業実施計画についてに移らせていただきます。

協働推進事業につきましては、麻生区区民会議運営要領第2条第2項の規定により、区民会議が事業内容等の報告を受けることになっています。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（事務局から資料に基づいて説明）

委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から協働推進事業についてご報告をいただきました。この協働推進事業について委員の方から何かご質問、ご意見がございましたら、よろしくをお願いします。

委員 昨年度提案で申し上げたのですけれども、全般的にこの事業というのが新百合ヶ丘を中心に行われている事業が多い。したがって、もう少し、柿生だとか、百合ヶ丘とかというところに重点を置いた事業というものも何かできないものかなと。あの辺の柿生とか百合ヶ丘がだんだん寂れていくということに対処するようなまちづくりの事業を何か企画していただきたい。これは提案型でもいいのかもしれないけれども、そっちの方向に目を向けていただきたいなと思ったわけです。今回の中でそちらの方向に足を少し入れたというか、重点を置いた、比重を置いたような事業というのはあるのでしょうか。

事務局 もともとが新百合ヶ丘周辺にいろいろなハード面での施設が重なっているということがありまして、そこを使った事業という形になりますと、どうしてもここだということになります。ただし、音楽祭とかそういうところの参加者を見ますと、ここでやるのですけれども、区内全域から来ていただいてやっていただいているという事業展開がほぼ主な事業になっています。

それと、先ほども区民提案型を大分取り入れてきたということもありますので、イメージアップ等の事業で、柿生の方とか、百合ヶ丘の方、その地域地域でやられている事業について、それを支援していくという形で事業展開をしていきたいと思っておりますので、いろいろそういう部分でのアピールをしていただければ事業化できると思っております。

委員長 それでは、ほかにございませんでしょうか。

それでは、今、委員のほうからも、もっと全般的に区の中を見渡したような事業ということで、ただ、参加者はすべてのところから行われているということで、また、今後ともこの協働推進事業については私たちもよく見ていきたいと思っております。

副委員長 企画部会から協働推進事業、19年度の実施報告と20年度の計画についてここで報告したいと思います。これは8ページに書いてございます。きょうは時間が押しておりますので、これを再読することはしたくないのですが、私どもとしましては、この協働推進事業の意義というものを考えた場合に、区民会議がそれについて意見を言う場として決められている以上、もう少しこの件については深く詰めたほうがよかったのではないかなという反省とともに、その内容について書いてございますけれど

も、結論としまして、当事業の重要性は認識するものの、さらなる審議・調査は、今期、あと1回残っておりますけれども、今期においては見送りとして、当区の協働推進事業のあり方及び区民会議が協働推進事業の報告を受けての審議、そういったものにどういふふうにかかわるのか、役割の果たし方等についての十分なる検討は、次期区民会議に引き継ぐことが適当であろう、そういう結論を企画部会で出しました。それについて特にご意見がなければ、ひとつご了承いただきたいと思います。

委員長 今、副委員長からご報告がありましたように、この協働推進事業につきましても、次期区民会議に検討についての引き継ぎをしたいということで、皆様のほうからご異論がなければそのように取りまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

委員長 ありがとうございます。それでは、そのようにまとめさせていただきたいと思います。

## (2) 第2期区民会議 団体推薦委員依頼団体について

委員長 それでは、引き続きまして、報告(2)の第2期区民会議 団体推薦委員依頼団体についてに移らせていただきたいと思います。

事務局、説明をお願いします。

事務局 (事務局から資料に基づいて説明)

委員長 ありがとうございます。それでは、麻生区区民会議 第2期団体推薦委員の依頼先団体につきましては、資料5にあります7団体をお願いするということで確認させていただきます。

次に、参与の方からご意見、ご助言をお願いいたしたいと思います。よろしく願いします。

参与 皆さんお疲れさまでした。市議会議員の伊藤久史です。時間切れで、新しい区民会議に移ってってしまうというところで、総体的には、皆さん、非常に残念な思いがあるのではないかと思います。農の専門部会の方からは、都市型農業を営む農業経営者、農業をやっている人たちは本当にいろいろな多くの課題を持っているわけですが、その課題を抱えているのは農業をやっている人たちで、農業をやっていない市民の立場からどういう形で農業とかかわっていくかという、いい視点で取り組まれるのかなと思ったのですけれども、残念ながら、セレスモスを中心とした直売所のところだけで終わってしまったわけですが、一たん終わりということにしておいて、また引き続き、継続ということにされていくということですので、ぜひ次期区民会議の皆さんには頑張してほしいと思います。

高齢者の専門部会のほうはすごいボリュームのある、聞いていてなかなか、最初の

ほうの説明を忘れてしまうぐらいの長い時間の説明をいただきました。本当にありがとうございました。最後に時間切れで、高齢者の見守りというところが、農の専門部会と同じように中途半端というか、ほぼ手つかずという状態になってしまったというのが、同じようなことが言えるのかなと思います。引き続き、ぜひ次の区民会議にも申し送っていただきたいなと思いますし、いこいの家の提言ですね、老人という言葉がなくそうだとか、そういうのはすぐできそうな感じがするのですが、そうした提言については私どもも非常に参考にさせていただきたいと思います。この区民会議に出た意見を私たちは市議会のほうに反映させていきたいというふうに考えております。

以上でございます。どうもご苦労さまでございました。

参与 市議員の勝又です。私は5回目から区民会議に出させていただいて4回目になるのですけれども、何のためにこの場所にいるのかということをやきは改めてその責任の重さを感じさせていただいたなと思っています。特に高齢者の専門部会からのアンケートに関する報告は、重くて重くて、本当に中身の濃いアンケート実施だったなと思って聞いておりました。たくさん宿題を与えられたような気がしますので、ぜひ1つ1つこれから私自身も高齢者の問題については取り組みを見ていきたいというか、自分でも取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、持ち帰らせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

参与 市議員の山口です。お疲れさまでした。高齢者のお話ですと、私もつい先日ですけれども、全部の地域包括センターに調査などをさせていただきました中で、やはり本当に現実、厳しい状況がある。先ほど部会長から報告がありましたように、できないことはできないというふうな、はっきり、何ができないのか、何をしてもらいたいのか、そして、私たちとしては地域の中でどういようなことで手助けができるのかということ、現状、要介護と要支援というところを行ったり来たりしながら、非常に厳しい状況の高齢者の方がたくさんいるという状況なども把握しておりますが、これからはどんどん高齢者がふえていく中で、私たちが見守っていかなければいけない高齢者もどんどんふえていく、また、孤独死などが1人でもないような地域にしていきたいなという思いは一緒でございます。現実、福祉有償運送といいまして、タクシーと同じようにNPO事業者でやっていらっしゃる方の話も伺いました中で、高齢者の方が社会参加していきたいという気持ちがあって、いろいろな高齢者の方が移動する際のニーズはたくさんあるのですけれども、それにこたえていけないというNPOや事業者の方がたくさんいらっしゃいます。まだ元気で社会参画したいと思っっている方、これからはどんどん拾っていききたいと思っております。

それから、農のほうのことなのですけれども、自分たちが今食育のことも含めて、カロリーベースで自給率が4割切っている、重量ベースだと2割ぐらいになってしまっているという中で、近くの人がつくってくれたお野菜を給食などで食べられる幸せ

を感じられるような子どもたちが育っていくといいなと思いながら、子育てのこともこれからも地域の皆さんで考えながら、区民会議でお話しされてきたことなども踏まえ、議会のほうにもつなげていきたいなと思います。皆様、企画、調査、検討、本当にお疲れさまでした。

委員長 ありがとうございます。参与の方には引き続き区民会議へのご助言をお願いしたいと思います。

#### 4 その他

～第9回区民会議の日程について～

委員長 それでは、続きまして、次第4、その他、第9回区民会議の日程についてに移らせていただきます。

事務局、お願いします。

事務局（事務局から事務連絡）

委員長 ありがとうございます。

早いもので、ただいま事務局からお話がありましたように、次の区民会議が第1期の最終回になります。最後の区民会議では、報告書という形になると思いますが、第1期のまとめと第2期への引き継ぎ事項を確認していくことが必要になるかと思えます。

それで、これは提案なのですが、第1期区民会議の委員の方のご意見、ご感想をまとめて、それを2期の委員の方へ引き継いでいこうかと思っております。このことにつきましても、具体的な意見集約の方法、取りまとめは企画部会の方にお願ひできればと思いますが、委員の皆様、この提案に対していかがでしょうか。よろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

委員長 それでは、この件につきましては、委員の皆様のご了解が得られましたので、意見集約の方法等、詳細は企画部会で詰めていただければと思っております。また、委員の皆様のところには、4月に入りましたらば、ご意見、ご感想を記入していただく書面が届くと思えます。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力いただきたいと思えます。

非常に多くの審議事項を抱えまして、まだまだ第1期としては中途半端と言われれば中途半端なのですが、どうしても始めるのが遅く、初めてでしたので、最初からすぐに課題ということではなくて、区民会議とはということから麻生区の区民会議は始まったものですから、課題設定が遅くなりまして、審議過程もずれ込んでしまって、皆様には大変ご迷惑をおかけしたかと思えますが、第2期の区民会議にこれを引き継いでいければと思っておりますので、またよろしくお願ひいたしたいと思えます。

## 5 閉会

委員長 長時間にわたるご審議ありがとうございました。また、議事の進行についてのご協力ありがとうございました。

これで第8回麻生区区民会議を閉会させていただきます。

午後8時24分閉会